

持続可能な開発のための教育（ESD）

ESD（Education for Sustainable Development）は、「持続可能な開発のための教育」と訳される。ESDは、様々な問題を自分事として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。環境、貧困、人権、平和といった地球規模の問題の解決を目指す持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、ESDが期待されている。

1 ESDの目標

- ◎ すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- ◎ 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
- ◎ 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすこと

（「我が国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」より）

ESDの概念図



関連する様々な分野を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組むことが必要です。

※日本ユネスコ国内委員会ウェブサイトより

2 ESDを通して児童生徒に身に付けさせたい力

- 1 環境の保全と経済の発展の両立を探究するなど、多面的・総合的に考えることができる

自然環境を守っていくことが大切である一方で、地域の人々が生活していくための環境整備も大切である。環境問題に限らず、簡単に答えが出ない問題を、様々な角度から考え、議論していくことを通して総合的に考えることができる力が求められている。

- 2 立場や考え方の違う人々を理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することができる

地球上では、異なる歴史や伝統、生活習慣をもつ人々がそれぞれの社会を形成して暮らしている。都市部と地方、先進国と発展途上国などで、立場や考え方が異なることも少なくない。相手の考えを理解し、尊重しながら、議論していくことを通して協同的に課題を解決することができる力が求められている。

- 3 誰が取り組んでも持続するようなシステムを考え、構築に向けて主体的に行動することができる

一部の関心が高い人々しか協力してくれない方法では、多くの人々が参加し、将来の世代まで続くような解決策にはならない。様々な考え方をもつ様々な人々が行動しても、問題が解決に向かうような「システム」の構築に向けて、議論していくことを通して主体的に行動できる力が求められている。

3 新学習指導要領におけるESDに係る主な内容（例）

平成29年3月に公示された小・中学校学習指導要領では、全体の内容に係る前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科においても、関連する内容が盛り込まれている。

小（中）学校学習指導要領【前文抜粋】

これからの学校には…，一人一人の児童（生徒）が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。（平成29年3月公示）

これまで以上に，各学校において，総合的な学習の時間や各教科等の学習を通じて，ESDを効果的に行うためには，学校全体で計画的に実践することが必要である。

★ 学校における取組事例

持続可能な地域社会づくりに取り組むESD 広島県立瀬戸田高等学校

1 取組の概要

地域に根ざした系統的なキャリア学習，地域への貢献活動などを通して，思考力・判断力・コミュニケーション力・やりぬく力・創造力・協調性・人間性などを養っている。そのことにより，過疎・高齢化が進む地域を活性化し，地域社会を持続させようとする意欲と実践力を持った人材を育成している。



児童生徒・地域住民で登山・清掃活動

【主な取組】

- ① 「島ぐるみ」で取り組むキャリア学習，教科学習
 - 年間を通したインターンシップを地域と連携して17年間継続して実施
 - 地域の産業，文化，自然等に関する体験的な学習を小中高等学校で継続的に実施
 - 地域の産業，文化，自然等に触れる英語活動イベントを小中高等学校で合同開催
 - 地域の児童生徒が自由に利用できる「英語サロン」を開設予定
- ② 地域へのボランティア活動
 - 地域で開催されるイベント等の運営を全校生徒が担当
 - 要請に応じて，地域行事，小中学校行事等の運営・補助に多くの生徒が参加
 - 活動でのつながりを通して，地域住民や小中学生が高等学校の学校行事に参加
- ③ 部活動としての「しまおこし事業部」
 - 部活動として継続的に地域貢献活動
 - 観光や介護に関する冊子を作成
 - 地域住民の安全避難のための「減災プロジェクト」

取組のポイント

総合的な学習の時間，教科学習，特別活動，部活動などの諸活動を「持続可能な地域社会づくり」という視点からESDの活動として整理し，地域社会を持続させる意欲と実践力をもった人材の育成を行っている。

学習活動全体がESDの取組につながっており，校長のリーダーシップの下，全教職員での取組を行っている。

地域の小中学校，関係機関，住民自治組織等と連携し，自校の学習活動の充実に結びつけるとともに，連携自体が「持続可能な地域社会づくり」の役割を果たしている。

2 生徒の変容

- ☆ 生徒が自主的に動き，自分の力で問題を解決するようになった（思考力，判断力）。
- ☆ 幅広い層の人たちと積極的にかかわる態度が身に付いた（コミュニケーション能力）。
- ☆ 最初から最後まですべての生徒が怠ることなく一生懸命に活動している（やり抜く力）。
- ☆ 文化祭で新しい企画を発案し成功させるなど創意工夫と実践の意欲が育った（創造力）。
- ☆ 異なる意見に耳を傾ける力，多くの人と一緒に物事を進める力，弱者と一緒に寄り添う力などが育っている（協調性，人間性）。